

三井のリフォーム住生活研究所長 西田 恭子

綱町三井倶楽部の改修見学会

三井家の迎賓館として建てられた、綱町三井倶楽部は私たちにとっては、とても懐かしいところだ。

一〇年ほど前に、当社のリフォームプランナーが所属するデザインスタッフ会の総会を行い、庭園では弦楽四重奏が奏でられ、園遊会のように懇親を深めていた。ローストビーフを絶賛しながら交流をしていたが、人数や体制が変わり、しばらく綱町三井倶楽部とは遠のいてしまった。ただ綱町三井倶楽部が耐震改修をしたことは聞いており、いつかまた行ってみたいものだと思っていた。

そんな折、清水建設の方につてができ、デザインスタッフ会の東京支部の面々と、実際に施工された現場監督に、綱町三井倶楽部についての説明をお聞きすることができた。

現場での改修は一カ所ずつ地下を掘り進めながら、建物と地盤との間に免震装置を設置する。それが建物直下全面に設置され、大地震に対しての耐震性能が大幅に向上されていた。

その説明を、実際に地下に入り込み、積層ゴムと弾

性すべり支承

に挟まれた地面と建物の間で受けた。頭

上に建物があり、その間にいることは何だがあり気持のいいものではなかったが、既存建物に対しての耐震技術に感嘆した。

監督にとっても工事には大変な緊張があったという。どんなに技術が確立しても、現場では人の力に負うところが大きい。一〇〇

年近くも威風堂々と建っていた建物がバランスを崩し、傾いたら大変なことだ。最初のパワーシャベルでのひと掘りは、息を飲む瞬間だったことは想像できる。

監督は銀座の交詢ビルの再建建設にも携わられたという。日本最初の実業家社交クラブの本部があり、正面には建て替え前の交詢社ビルの玄関が再現されているが、きつとその折にも大変な心労があったことだろう。

その日は小屋裏によじ登ったの屋上見学もあり、スカートとハイヒールを履い



てきたことを大いに後悔しながらの見学となった。そのいでたちに見合ったこととしては、地下のワインセラール見学と室内インテリアの改修見学、そして美味しいランチ付きだったことだ。

ハイヒールと言えは改修前は、綱町三井倶楽部へは車で乗り付けるような方しか来ないのだろうか？と思っていた。舗装された道路から、玄関の車寄せまでの間が、以前は砂利敷きだったのだ。ここで、なんど靴をタヌにしたかわからない。今回の改修では、きれいな石張りが玄関まで続いていた。

そして入口の門扉もおおされ、まん中には三井家の家紋が飾られていた。私はさっそく家紋付きの門扉とともに、記念写真を撮ってもらった。



西田恭子氏のプロフィール
 西田恭子氏のプロフィール
 「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。